

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

追加資料

【平成29年度分】

平成30年1月10日

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

提出者: 愛知県バス対策協議会

	補助対象事業者等		事業概要		前回の事業評価結果の反映状況	事業実施の適切性	目標・効果達成状況	複数市町村を跨ぐ系統としての役割	幹線系統としての役割	事業の今後の改善点(特記事項を含む)
	運営主体	運行事業者	系統名	運行区間						
1	名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	桜形	東岡崎～桜形	関係市町と協力し、時刻表、バスマップの作成・配布や、バスロケーションシステムの提供、ノンステップバスへの更新、乗換検索サイトへの情報提供を行い、利用者利便の向上に努めた。	A	補助対象期間の利用者は45,291人であり、目標の44,279人の昨年度比では102.3%で目標は達成できた。前年比は99.7%でほぼ横ばいであるが、一人平均乗車キロが減少したことでも収入が減少し、輸送量が15人を下回った。特に広域利用の減少が目立っている。	旧市町を跨ぐ利用者は、7%、240人／月である。地域間の利用においては、得々バスを利用する高齢者が約7割を占めている。中心市街地部への買物、通院の利用が大部分と考えられる。	＜広域的・幹線の系統＞ 名古屋鉄道名古屋本線 ＜地域的・フィーダー的系統＞ 額田支所市民病院線 ささゆりバス、乙川バス	輸送量15人／日を下回り、安定的な需要の確保が出来ていない。特に中山間部の利用が大幅に減少しているため、利用促進策を行いつつも、抜本的打開策を模索していくことが必要である。
2			岡崎・足助	東岡崎～足助	関係市町と協力し、時刻表、バスマップの作成・配布や、バスロケーションシステムの提供、ノンステップバスへの更新、乗換検索サイトへの情報提供を行い、利用者利便の向上に努めた。	A	補助対象期間の利用者は、132,516人であり、目標の121,934人に対して110.9.1%となり、目標を達成できた。前年度比も116.%と増加した。数値は伸びているが、競合する岡崎市内線の減便による利用者の移行もあると考えられ、この路線独自の部分は依然厳しい。	利用者のうち、岡崎市と豊田市を跨ぐ利用者は、17.0%、2,010人／月であるが、通学定期の利用者が比較的多く、豊田市内から岡崎市内の学校への通学利用が多いと考えられる。鉄道駅、市街地への利用の他、観光利用も多いと考えれ、広域的な路線としての役割を果たしていると考えられる。	＜広域的・幹線の系統＞ 名古屋鉄道名古屋本線 ＜地域的・フィーダー的系統＞ おいでんバス(旭・足助線、稲武・足助線、さなげ・足助線)	岡崎市内の需要の多い区間で利用者数を稼ぎ利用者数としては伸びているが、広域幹線的な利用の減少は進んでいる。より一層関係市と連携した利用促進を図ることが必要である。利用実態に合わせた運行計画に向けて、事業者、沿線市町村の協議が必要である。
5			岡崎・安城	東岡崎～安城駅前	関係市町と協力し、時刻表、バスマップの作成・配布や、バスロケーションシステムの提供、乗換検索サイトへの情報提供を行い、利用者利便の向上に努めた。	A	補助対象期間の利用者は、57,031人となり、目標の53,354人に対して1106.9%となり目標を達成することができた。前年度比も113.6%となり、増加した。利用者は増加しているものの1便あたりの利用者は低迷している。一方、利用者からは運行本数の増加や定時制、乗換時間の短縮を求める声もある。	岡崎市と安城市を跨ぐ利用者は、28%、1,350人／月であり、広域的な路線としての役割を果たしていると考えられる。両市を跨ぐ利用者の多くは現金、ICSF利用者であり、鉄道駅(東岡崎駅、安城駅)の利用者、中心市街地部への買い物への利用者が大部分と考えられる。	＜広域的・幹線の系統＞ 名古屋鉄道名古屋本線、JR東海道本線 ＜地域的・フィーダー的系統＞ 名鉄バス安城線、あんくるバス環状線、安祥線、東部線、西部線、作野線	利用促進の取組を実施する。朝夕のラッシュ時間帯における激しい遅延が恒常化することで、通勤・通学の安定需要を失うとともに、鉄道の利便の向上により都市間移動の役目が薄れているとの見方がある一方、改善により都市間路線としての役割を果たすことへの期待もあることから、沿線市町と事業者が連携して協議して、改善の方向性を見出す必要があると考えられる。
26	名鉄東部交通(株)	名鉄東部交通(株)	岡崎・西尾	東岡崎～青野～西尾	沿線地域でのイベントや道路状況の情報収集に努め、定時運行の確保を図った。公共交通マップ等の作成配布を行い公共交通の情報提供を行った。また、福祉分野と連携し高齢者を対象とした乗り方案内の講座を実施した。	A	補助対象期間の利用者は159,917人であり、目標の159,488人に対して1100.3%となり目標を達成できた。昨年度比も109.2%となり増加した。10D調査では定期外が比較的良好に推移した。	利用者のうち、岡崎市と西尾市を跨ぐ利用者は、21%、2,833人／月であり、広域的な幹線として役割を果たしていると考えられる。双方からの通勤通学利用があると考えられる。また、西尾市東部から岡崎市にある商業施設への利用も見られる。	＜広域的・幹線の系統＞ JR東海道線、名鉄名古屋本線・西尾線 名鉄バス、名鉄東部交通岡崎西尾線市民病院系統 ＜地域的・フィーダー系統＞ 名鉄東部交通 平坂中畑線、寺津線、一色線 六万石くるりんバス市街地線、東廻り線、西廻り線 いこまいかー(乗合タクシー)	定時運行の確保が必要であることから、事業者、沿線市協力し道路状況等の把握に努め定時運行に努める。公共交通マップの作成、配布、イベントの際の乗り方教室を実施、地域の会合の際に乗合タクシーと併せたPRを行う。 H32年4月開業予定の総合病院分院への乗り入れに関して道路整備計画、利用者の交通需要に対応した運行計画を検討していく。
27			岡崎・西尾(西尾市民病院)	岡崎駅西口～西尾市民病院～西尾	沿線地域でのイベントや道路状況の情報収集に努め、定時運行の確保を図った。公共交通マップ等の作成配布を行い公共交通の情報提供を行った。また、福祉分野と連携し高齢者を対象とした乗り方案内の講座を実施した。	A	補助対象期間の利用者は、64,667人であり、目標の70,207人に対して92.1%となり、目標を達成できなかった。前年度比も79.4%となり、減少した。OD調査の結果では定期及び定期外ともに伸び悩みがみられる。	利用者のうち、岡崎市と西尾市を跨ぐ利用者は、26%、1,389人／月であり、広域的な幹線として役割を果たしていると考えられる。双方からの通勤通学利用があると考えられる。	＜広域的・幹線の系統＞ JR東海道線、名鉄名古屋本線・西尾線 名鉄バス、名鉄東部交通岡崎西尾線青野系統 ＜地域的・フィーダー系統＞ 名鉄東部交通 平坂中畑線、寺津線、一色線 六万石くるりんバス市街地線、東廻り線、西廻り線 いこまいかー(乗合タクシー)	定時運行の確保が必要であることから、事業者、沿線市協力し道路状況等の把握に努め定時運行に努める。公共交通マップの作成、配布、イベントの際の乗り方教室を実施、地域の会合の際に乗合タクシーと併せたPRを行う。 H32年4月開業予定の総合病院分院への乗り入れに関して道路整備計画、利用者の交通需要に対応した運行計画を検討していく。